

|                    |   |      |      |         |  |
|--------------------|---|------|------|---------|--|
| 授業科目               | 授業番号： 321   |      |      | 担当者     | 船津 潤   |
|                    | 日本経済論   |      |      | 授業外対応   | 講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください) |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]   |
|                    | 1,2年  | 前期   | 2単位  | 選択      | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について、特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、グローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになる<br/>海外とのつながりを踏まえて日本経済の現状と課題について自分の見解が持てるようになる</p>   |      |      |         |  |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会<br/>内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>  |      |      |         |  |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第 6回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等</p> <p>第 7回 行政指導：勸告操短、企業の反発等</p> <p>第 8回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等</p> <p>第 9回 1970年代の日本経済：2度の石油危機、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第 11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第 14回 構造改革と現在の政策：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、近年の政策との比較等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p> |      |      |         |  |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | <p>普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等で調べ、検討することを勧めます（これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です）。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>   |      |      |         |  |
| 成績評価の方法            | <p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>   |      |      |         |  |
| 実務経験について           | なし  |      |      |         |  |

|                    |  |      |       |  |        |
|--------------------|--|------|-------|--|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 322  |      | 担当者   | 船津 潤   |        |
|                    | 財政学  |      | 授業外対応 | 講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください) |        |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位]  | [必修/選択]  | [授業形態] |
|                    | 1,2年   | 後期   | 2単位   | 選択   | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】 財政に関する基本的な概念や理論、日本の基礎的な制度の内容、実態、特徴、課題に対する理解を深めること</p> <p>【概要】 テーマを踏まえて、基礎的な制度について、財政民主主義という財政制度の根幹、公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、グローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義で、マクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのか、また、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても理解してもらえそうです。</p> <p>【到達目標】 財政制度を理解し、政府活動を評価できるようになる<br/>理論がどのように活用されているのか理解する<br/>財政の影響を踏まえて経済・社会の動向を把握できるようになる</p>   |      |       |  |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年)<br/>神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2021年)<br/>関口祐司編著『図説 日本の財政 各年度版』財経詳報社</p>   |      |       |  |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第 3回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第 4回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割、予算原則等</p> <p>第 5回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋蔵金」、改革の方向等</p> <p>第 6回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等</p> <p>第 7回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第 8回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等</p> <p>第 9回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等</p> <p>第 10回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等</p> <p>第 11回 公債(2)：財投債と財政投融资、2001年度の改革、批判と今後の展望等</p> <p>第 12回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第 13回 財政の国際化：国際公共財、国際的な ODA 改革の動向等</p> <p>第 14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p> |      |       |  |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | <p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>   |      |       |  |        |
| 成績評価の方法            | <p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>  |      |       |  |        |
| 実務経験について           | なし   |      |       |  |        |

|                    |   |      |       |                          |        |
|--------------------|---|------|-------|--------------------------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 323   |      | 担当者   | 前田 千春                    |        |
|                    | 農業経済論   |      | 授業外対応 | 適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。 |        |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位]  | [必修/選択]                  | [授業形態] |
|                    | 1,2年  | 後期   | 2単位   | 選択                       | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。</p> <p>【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。</p> <p>【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。</p>   |      |       |                          |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房 (2018年)<br/>八木宏典監修『最新版 図解 知識ゼロからの現代農業入門』家の光協会 (2019年)</p>  |      |       |                          |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識</p> <p>第 2回 日本の農産物需給と食料事情</p> <p>第 3回 食の安全に向けた取り組み</p> <p>第 4回 日本農業の展開過程</p> <p>第 5回 農業協同組合</p> <p>第 6回 稲作</p> <p>第 7回 園芸作物</p> <p>第 8回 工芸作物</p> <p>第 9回 畜産</p> <p>第 10回 日本の農業・農村の現状と課題</p> <p>第 11回 日本農業の新たな取り組み</p> <p>第 12回 世界の農産物需給と食料事情</p> <p>第 13回 諸外国の農業と農業政策</p> <p>第 14回 途上国経済と農業</p> <p>第 15回 まとめ：これからの日本農業</p> |      |       |                          |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 講義ノートおよび参考文献を活用して講義レポートに取り組むこと。   |      |       |                          |        |
| 成績評価の方法            | 講義レポート (60%)、期末レポート (40%)   |      |       |                          |        |
| 実務経験について           | なし  |      |       |                          |        |

|                    |   |      |      |         |                         |
|--------------------|---|------|------|---------|-------------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 324   |      |      | 担当者     | 岩上 敏秀                   |
|                    | ファイナンス論   |      |      | 授業外対応   | いつでも対応します。メールで連絡してください。 |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                  |
|                    | 1,2年  | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式                    |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、株式などの投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p>   |      |      |         |                         |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>   |      |      |         |                         |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目的・進め方、 人生とお金（1）（生涯でかかるお金を確認しよう）</p> <p>第 2回 人生とお金（2）（生涯で受け取るお金を確認しよう）</p> <p>第 3回 投資のリスクとリターン（投資収益率、分散、標準偏差）</p> <p>第 4回 主な投資商品（預金、債券、株式、投資信託、債券と金利）</p> <p>第 5回 株式投資（1）（株式会社、上場、証券取引所）</p> <p>第 6回 株式投資（2）（会社の価値、株価の適正水準）</p> <p>第 7回 株式投資（3）（事例研究①：企業分析、業績予想）</p> <p>第 8回 株式投資（4）（事例研究②：企業価値・株価の予想）</p> <p>第 9回 株式投資（5）（株価、チャート、株価の変動要因）</p> <p>第10回 長期・積立・分散投資（1）（分散の効果）</p> <p>第11回 長期・積立・分散投資（2）（複利パワー）</p> <p>第12回 投資信託（1）（投資信託の基本）</p> <p>第13回 投資信託（2）（ファンド情報の見方、ファンドの選び方）</p> <p>第14回 証券会社の選び方、NISA の活用</p> <p>第15回 まとめ、授業アンケート</p> |      |      |         |                         |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示します。  |      |      |         |                         |
| 成績評価の方法            | 中間レポート（30%）＋期末試験（70%）   |      |      |         |                         |
| 実務経験について           | 国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。  |      |      |         |                         |

|                    |   |      |      |         |            |
|--------------------|---|------|------|---------|------------|
| 授業科目               | 授業番号： 325   |      |      | 担当者     | カムチャイ ライサミ |
|                    | 経済学史  |      |      | 授業外対応   | 講義終了時      |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]     |
|                    | 1,2年  | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式       |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】 経済学史入門<br/>経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】 経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】 経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること<br/>経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>   |      |      |         |            |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>  |      |      |         |            |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 経済学史の方法と範囲</p> <p>第 2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、ミッセルデン、マン、スチュアート</p> <p>第 3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー</p> <p>第 4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第 5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第 6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第 7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第 8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第 9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第 10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ、クールノー</p> <p>第 11回 限界分析の経済学：ジェヴォンズ、エッジワース</p> <p>第 12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第 13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第 14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第 15回 ケインズ革命：ケインズ</p> |      |      |         |            |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。   |      |      |         |            |
| 成績評価の方法            | 期末筆記試験（100%）  |      |      |         |            |
| 実務経験について           | なし。   |      |      |         |            |

|                    |  |      |      |         |                         |
|--------------------|--|------|------|---------|-------------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 326  |      |      | 担当者     | 岩上 敏秀                   |
|                    | 経済学特講 I  |      |      | 授業外対応   | いつでも対応します。メールで連絡してください。 |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                  |
|                    | 2年   | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式                    |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】証券外務員一種資格試験合格に必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。</p> <p>【概要】金融機関の職員として金融商品の営業活動に従事するには、証券外務員の資格が必要です。本講義は、銀行などの金融機関に内定した学生を対象に、証券外務員一種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。商経学科以外の学科から銀行に内定している学生の履修も歓迎します。(本講義は、金融商品を販売する側の金融機関での実務知識を学びます。金融商品を利用する側の証券投資や資産運用を学びたい場合は、「ファイナンス論」の履修を薦めます)</p> <p>【到達目標】証券外務員一種資格試験に合格できる知識を修得する。</p>  |      |      |         |                         |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>  |      |      |         |                         |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス、株式業務、信用取引(1)</p> <p>第 2回 株式業務、信用取引(2)</p> <p>第 3回 株式業務、信用取引(3)</p> <p>第 4回 債券業務(1)</p> <p>第 5回 債券業務(2)</p> <p>第 6回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(1)</p> <p>第 7回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(2)</p> <p>第 8回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(3)</p> <p>第 9回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(4)</p> <p>第 10回 証券税制</p> <p>第 11回 金融商品取引法</p> <p>第 12回 取引所定款・諸規則</p> <p>第 13回 協会定款・諸規則</p> <p>第 14回 投資信託および投資法人に関する業務</p> <p>第 15回 まとめ、講義アンケート</p> |      |      |         |                         |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示します。   |      |      |         |                         |
| 成績評価の方法            | 証券外務員試験の受検結果 (90%) + 授業への参加姿勢 (10%) (外務員試験を受検しない学生については確認テストを行うことがあります)  |      |      |         |                         |
| 実務経験について           | 国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。   |      |      |         |                         |

|                    |  |      |      |         |                   |
|--------------------|--|------|------|---------|-------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 327  |      |      | 担当者     | 山口 祐司             |
|                    | 経済学特講Ⅱ   |      |      | 授業外対応   | メール等で予約の上適宜対応します。 |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]            |
|                    | 1,2年   | 前期   | 2単位  | 選択      | 講義方式              |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】第二次世界大戦後の世界は、「パクス・アメリカナ」と呼ばれ、アメリカが国際経済、国際政治の枠組みをリードしてきました。しかし冷戦が終結して30年以上経った現在、米中対立に見られるように、アメリカの圧倒的な優位は失われつつあるように見えます。この授業では、アメリカの超大国としての経済的発展とその限界について、アメリカ国内および国際経済の歴史という観点から学んでいきます。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>   |      |      |         |                   |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>  |      |      |         |                   |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか</p> <p>第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制</p> <p>第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ</p> <p>第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代</p> <p>第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌</p> <p>第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争</p> <p>第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序</p> <p>第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長</p> <p>第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機</p> <p>第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化</p> <p>第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成</p> <p>第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション</p> <p>第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック</p> <p>第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ</p> <p>第15回 まとめ</p> |      |      |         |                   |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。  |      |      |         |                   |
| 成績評価の方法            | レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）   |      |      |         |                   |
| 実務経験について           | なし。  |      |      |         |                   |

|                    |  |      |       |                |        |
|--------------------|--|------|-------|----------------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 328  |      | 担当者   | 藤野 博行          |        |
|                    | 法学特講   |      | 授業外対応 | 基本的にいつでも対応します。 |        |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位]  | [必修/選択]        | [授業形態] |
|                    | 1,2年   | 後期   | 2単位   | 選択             | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】ジェンダー的な視点から家族法を分析し、性別に関係なく個性や能力を発揮できる社会を構築するための方法を考えます。</p> <p>【概要】私たちは、「女らしさ、男らしさ」といったように、人を性別で分類してしまっています。しかし、このような分類は、個人の個性や能力を十分に発揮できる社会の構築を困難にします。そこで、本科目はジェンダー的な視点から民法（家族法）等について分析することにより、性別に関係なく個性や能力を十分に発揮できる社会を構築するための方法について考えます。</p> <p>【到達目標】①ジェンダーに関する基本用語等を説明できる、②社会問題等について、ジェンダーの視点から論理的に考えることができる、③自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、④異質な他者と議論・協働することができる。</p>  |      |       |                |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) なし（資料を配付します）</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p>  |      |       |                |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ①ガイダンス、アイスブレイク</p> <p>第 2回 ①「男らしさ」や「女らしさ」はいかにして作られるの？、②ジェンダー法学とは？</p> <p>第 3回 LGBT と性同一障害特例法について</p> <p>第 4回 ②家制度の特徴とその名残</p> <p>第 5回 我が国における家族に対する伊敷の変化と婚姻のかたち</p> <p>第 6回 離婚（有責配偶者からの離婚請求を巡る判例の変遷）</p> <p>第 7回 養育費について</p> <p>第 8回 暴力とジェンダー（ドメスティックバイオレンス）</p> <p>第 9回 ①これまでのまとめ、②中間テスト</p> <p>第 10回 ①中間テストの解説、②選択的夫婦別姓について（歴史）</p> <p>第 11回 選択的夫婦別姓について（国際比較、我が国における現在の世論の状況）</p> <p>第 12回 選択的夫婦別姓について（導入のメリットデメリット、賛成派と反対派の主張）</p> <p>第 13回 雇用における差別（これまでの差別と、その解消に向けた取組）</p> <p>第 14回 雇用における差別（女性の労働力率の変化とこれからの課題）</p> <p>第 15回 後半の復習とまとめ</p> |      |       |                |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示   |      |       |                |        |
| 成績評価の方法            | レポートまたは試験合計3回提出：3人の担当者からそれぞれ課題を出し、その評価点の平均で評価する。提出期限は各担当者が指示する。  |      |       |                |        |
| 実務経験について           | なし   |      |       |                |        |

他学科・他専攻の人たちと仲良くなりたいので、座席指定をします。また、原則として毎回グループワークがあります。

|                    |  |      |      |         |           |
|--------------------|--|------|------|---------|-----------|
| 授業科目               | 授業番号： 329  |      |      | 担当者     | 岡村 雄輝     |
|                    | 簿記論Ⅱ   |      |      | 授業外対応   | 講義前後に適宜対応 |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]    |
|                    | 指定なし   | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式      |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し，問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い，より高度な会計を学ぶためには，問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提とした講義になります。</p> <p>【到達目標】決算整理手続，補助簿，伝票の記入について学習する。</p>   |      |      |         |           |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』（令和7年版），中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』（第3版），中央経済社。</p>  |      |      |         |           |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 簿記一巡の手続きとは？：仕訳・転記・決算</p> <p>第 2回 売掛金と買掛金：人名勘定，売掛金と元帳と買掛金元帳，売掛金明細表と買掛金明細表，クレジット売掛金，前払金と前受金</p> <p>第 3回 その他の債権と債務：貸付金と借入金，未収入金と未払金，立替金と預り金，仮払金と仮受金，受取商品券，差入保証金</p> <p>第 4回 受取手形と支払手形：手形の意義と補助簿，手形貸付金と手形借入金，電子記録債権と債務</p> <p>第 5回 有形固定資産：有形固定資産の取得，減価償却，有形固定資産の売却</p> <p>第 6回 有形固定資産：固定資産台帳，年次決算と月次決算</p> <p>第 7回 貸倒損失と貸倒引当金：貸倒れと貸倒損失，貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定<br/>資本：株式会社の設立と株s期の発行，繰越利益剰余金，配当</p> <p>第 8回 収益と費用：収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い，消耗品と貯蔵品，諸会費</p> <p>第 9回 税金：租税公課，法人税，住民税及び事業税，消費税</p> <p>第10回 伝票：仕訳帳と伝票，3伝票制，伝票から帳簿への記入</p> <p>第11回 伝票：伝票の集計</p> <p>第12回 財務諸表：試算表の作成，決算整理</p> <p>第13回 財務諸表：精算表の作成，財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題：問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題：問題演習と解説</p> |      |      |         |           |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。   |      |      |         |           |
| 成績評価の方法            | 期末テスト100%  |      |      |         |           |
| 実務経験について           | なし   |      |      |         |           |

|                    |   |      |      |         |        |
|--------------------|---|------|------|---------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 330   |      |      | 担当者     | 福田 忠弘  |
|                    | 国際関係論   |      |      | 授業外対応   | 適宜対応   |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態] |
|                    | 1,2年  | 前期   | 2単位  | 選択      | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>   |      |      |         |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>  |      |      |         |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第 3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第 4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第 5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第 6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第 7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第 8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第 9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会</p> <p>第15回 まとめ</p> |      |      |         |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示する  |      |      |         |        |
| 成績評価の方法            | 試験（100％）によって評価する。   |      |      |         |        |
| 実務経験について           | NGO での勤務経験あり  |      |      |         |        |

|                    |  |      |      |         |           |
|--------------------|--|------|------|---------|-----------|
| 授業科目               | 授業番号： 331  |      |      | 担当者     | 小林 朋子     |
|                    | 比較文化   |      |      | 授業外対応   | 適宜対応（要予約） |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]    |
|                    | 2年   | 前期   | 2単位  | 選択      | 講義方式      |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】多文化主義で学ぶ比較文化論</p> <p>【概要】文化はそれぞれの人が育った環境や受けた教育、時代や社会的な位置によって多種多様である。本講義は、「主流文化」とは何かという問いから始まり、サブカルチャー、ジェンダー、メディア、エスニシティ、ナラトロジーなどをテーマに、それぞれの文化において、誰が何のためにどんな立場でその文化を担っているのか、社会・歴史的に読み解く文脈把握力を養う。それぞれのテーマに関する日本語および英語による文献（英語で書かれた文学作品を含む）を書き手・読み手双方の立場を考察して読解することで、文化・文学批評の基礎的な方法論も学ぶ。*英</p> <p>【到達目標】他言語を話す人々の価値観を文化・文学を通して知ることができる。文化・文学批評の基礎的な方法を理解している。</p>  |      |      |         |           |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 原英一編著『お伽話による比較文化論』（松柏社）</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>  |      |      |         |           |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 イン트로ダクション</p> <p>第 2回 「主流文化」とは何か1</p> <p>第 3回 「主流文化」とは何か2</p> <p>第 4回 翻訳文化から考える比較文化</p> <p>第 5回 マイノリティとマジョリティ1</p> <p>第 6回 マイノリティとマジョリティ2</p> <p>第 7回 お伽噺で学ぶ比較文化論：サブカルチャーの行方</p> <p>第 8回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ナラトロジー1</p> <p>第 9回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ナラトロジー2</p> <p>第10回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ナラトロジー3</p> <p>第11回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー1</p> <p>第12回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー2</p> <p>第13回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー3</p> <p>第14回 お伽噺で学ぶ比較文化論：ジェンダー4</p> <p>第15回 まとめ</p> |      |      |         |           |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示する。  |      |      |         |           |
| 成績評価の方法            | 授業への参加態度 (30%)、小レポート (20%)、最終レポート (50%)  |      |      |         |           |
| 実務経験について           | なし   |      |      |         |           |

|                    |  |      |      |         |        |
|--------------------|--|------|------|---------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 332  |      |      | 担当者     | 福田 忠弘  |
|                    | アジア事情  |      |      | 授業外対応   | 適宜対応   |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態] |
|                    | 1,2年   | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>   |      |      |         |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p>  |      |      |         |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット</p> <p>第 3回 アジアの巨大遺跡：バガン</p> <p>第 4回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第 5回 東南アジアの基本情報：地理や気候</p> <p>第 6回 海域アジア：海を通した結びつき（1）</p> <p>第 7回 海域アジア：海を通した結びつき（2）</p> <p>第 8回 海域アジア：海を通した結びつき（3）</p> <p>第 9回 歴史的形成1：植民地の様子</p> <p>第10回 歴史的形成2：植民地からの独立（1）</p> <p>第11回 歴史的形成3：植民地からの独立（2）</p> <p>第12回 東南アジア1：インドシナ3国</p> <p>第13回 東南アジア2：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制：ASEAN を中心とする協力</p> <p>第15回 まとめ</p> |      |      |         |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示する   |      |      |         |        |
| 成績評価の方法            | レポート（100%）によって評価する。  |      |      |         |        |
| 実務経験について           | NGO での勤務経験あり   |      |      |         |        |

|                    |  |      |      |         |           |
|--------------------|--|------|------|---------|-----------|
| 授業科目               | 授業番号： 333  |      |      | 担当者     | 大重 康雄     |
|                    | ヨーロッパ経済事情  |      |      | 授業外対応   | メール等で適宜対応 |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]    |
|                    | 1,2年   | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式      |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ (EU) がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域の課題を考察する<br/>C2B2:M2A2:M2N2D2:M2B2:M2C2:M2B2:M2</p> <p>【概要】ヨーロッパ地域統合 (EU) から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。ガザ・ウクライナ紛争等による地政学的リスクが深刻化しておりそれら問題を米国や日本との通商・外交関係を交えて考察する</p> <p>【到達目標】ヨーロッパ地域統合 (EU) の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる</p>  |      |      |         |           |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第6版』有斐閣アルマ および講師作成プリント<br/>(2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか</p>  |      |      |         |           |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 開講<br/>現在ヨーロッパで何が<br/>起きているか</p> <p>第 2回 ヨーロッパ統合前史</p> <p>第 3回 ヨーロッパ統合の歴史</p> <p>第 4回 統一通貨ユーロとは</p> <p>第 5回 環境・エネルギー課題と<br/>EU財政諸問題</p> <p>第 6回 EU社会が抱える<br/>地政学的課題</p> <p>第 7回 BREXT 後の<br/>イギリスの将来</p> <p>第 8回 フランスとEU経済</p> <p>第 9回 ドイツとEU経済</p> <p>第 10回 その他諸国とEU経済</p> <p>第 11回 中・東欧諸国と EU 経済</p> <p>第 12回 EUと対外通商政策</p> <p>第 13回 欧州通貨と<br/>国際金融システム</p> <p>第 14回 ヨーロッパ社会と<br/>EU の将来</p> <p>第 15回 講義のまとめ</p> |      |      |         |           |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | シラバスに従って予習・復習し授業中に質問・意見交換すべきことをまとめること  |      |      |         |           |
| 成績評価の方法            | 筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)  |      |      |         |           |
| 実務経験について           | 地域金融機関での貿易取引等外国為替業務の知識・海外経験を活かし、国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す   |      |      |         |           |

|                    |   |      |      |         |               |
|--------------------|---|------|------|---------|---------------|
| 授業科目               | 授業番号： 334   |      |      | 担当者     | 村田 秀博         |
|                    | 国際経済特講 I  |      |      | 授業外対応   | 授業終了後 E メールにて |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]        |
|                    | 1,2年  | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式          |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】 経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出、それに伴う貿易取引<br/>県内中小企業も多くの海外業務を行っている。</p> <p>【概要】 日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】 地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた個々の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>  |      |      |         |               |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) レジユメ・プリント資料</p> <p>(2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>  |      |      |         |               |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材）</p> <p>第 2回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状</p> <p>第 3回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 4回 進出国の情勢比較（中国）</p> <p>第 5回 海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など）</p> <p>第 6回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致</p> <p>第 7回 貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか）</p> <p>第 8回 進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ）</p> <p>第 9回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール）</p> <p>第 10回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか）</p> <p>第 11回 進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ）</p> <p>第 12回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約）</p> <p>第 13回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付）</p> <p>第 14回 貿易実務（輸出・輸入）</p> <p>第 15回 まとめ</p> |      |      |         |               |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   |   |      |      |         |               |
| 成績評価の方法            | 筆記試験 80%+レポート 20%   |      |      |         |               |
| 実務経験について           | 金融機関にて国際業務に 23 年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100 回以上企画催行。タイ王国赴任経験あり。お勧めの海外旅行精通。  |      |      |         |               |

|                    |  |      |       |                          |        |
|--------------------|--|------|-------|--------------------------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 335  |      | 担当者   | 前田 千春                    |        |
|                    | 地域経済論  |      | 授業外対応 | 適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。 |        |
|                    | 〔履修年次〕   | 〔学期〕 | 〔単位〕  | 〔必修/選択〕                  | 〔授業形態〕 |
|                    | 1,2年   | 前期   | 2単位   | 選択                       | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。</p> <p>【概要】人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。</p> <p>【到達目標】日本の地域経済の構造とその実態を理解できる。地域経済を分析し、発展に向けた考察ができるようになる。</p>   |      |       |                          |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 松原宏編著『地域経済論入門 改訂版』古今書院（2022年）</p>   |      |       |                          |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：「地域」とは何か</p> <p>第 2回 地域経済の基礎理論</p> <p>第 3回 地域経済循環</p> <p>第 4回 地域経済の実態</p> <p>第 5回 地域経済に関する統計</p> <p>第 6回 グループワーク①：地域経済統計の活用</p> <p>第 7回 大都市と地方都市</p> <p>第 8回 工業都市</p> <p>第 9回 農業地域</p> <p>第 10回 山村地域</p> <p>第 11回 地場産業地域</p> <p>第 12回 第三次産業地域</p> <p>第 13回 地域経済の成長理論</p> <p>第 14回 グループワーク②：地域経済政策を考える</p> <p>第 15回 まとめ：地域経済の発展に向けて</p> |      |       |                          |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。   |      |       |                          |        |
| 成績評価の方法            | 講義レポート（40%）、グループ発表（10%）、期末レポート（50%）  |      |       |                          |        |
| 実務経験について           | なし   |      |       |                          |        |

|                    |   |      |      |         |                          |
|--------------------|---|------|------|---------|--------------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 336   |      |      | 担当者     | 前田 千春                    |
|                    | 地域産業政策  |      |      | 授業外対応   | 適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。 |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                   |
|                    | 1,2年  | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式                     |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】 地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】 地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。</p> <p>【到達目標】 地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。</p>   |      |      |         |                          |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 白須正・細川孝 編『地域産業政策の新展開 京都市を中心とした歴史研究と比較研究を踏まえて』文理閣 (2023年)</p>   |      |      |         |                          |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状</p> <p>第 2回 人口移動と地域間格差</p> <p>第 3回 地域産業政策の変遷</p> <p>第 4回 地域産業政策の事例①：製造業・工業</p> <p>第 5回 地域産業政策の事例②：農業</p> <p>第 6回 地域産業政策の事例③：林業</p> <p>第 7回 地域産業政策の事例④：観光業</p> <p>第 8回 地域産業政策の事例⑤：離島</p> <p>第 9回 鹿児島県の地域産業</p> <p>第 10回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える</p> <p>第 11回 地方創生にかかる制度・仕組み</p> <p>第 12回 海外の地域産業政策①</p> <p>第 13回 海外の地域産業政策②</p> <p>第 14回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表</p> <p>第 15回 まとめ：これからの地域産業政策の在り方</p> |      |      |         |                          |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。  |      |      |         |                          |
| 成績評価の方法            | 講義レポート (40%)、グループ発表 (10%)、期末レポート (50%)  |      |      |         |                          |
| 実務経験について           | なし  |      |      |         |                          |

|                    |  |      |      |         |  |
|--------------------|--|------|------|---------|--|
| 授業科目               | 授業番号： 337  |      |      | 担当者     | 船津 潤   |
|                    | 地方自治論  |      |      | 授業外対応   | 講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください) |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]   |
|                    | 1,2年   | 前期   | 2単位  | 選択      | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】地方自治に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論、制度について講義するとともに、参考になるとされる海外の事例も取り上げます。また、グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。</p> <p>【到達目標】日本の制度について理解を深める<br/>自治体の活動について考察、判断できるようになる<br/>地域の課題を見出し、解決策を提案できるようになるための基礎力を身につける</p>  |      |      |         |  |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷<br/>金澤史男編著『現代の公共事業 国際経験と日本』日本経済評論社(2002年)</p>  |      |      |         |  |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 地方自治(1)：地方自治の本旨、地方自治が求められる根拠、地方自治の意義等</p> <p>第 3回 地方自治(2)：グローバル化の影響、水道の民活等</p> <p>第 4回 地方自治体の意思決定(1)：国と地方公共団体の関係、首長・役所・議会の関係等</p> <p>第 5回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等</p> <p>第 6回 地方自治体の財源(1)：歳入の自治と三位一体の改革、地方債等</p> <p>第 7回 地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法、地方債改革との関係等</p> <p>第 8回 地方財政健全化法(2)：法律成立の背景、地方自治への影響等</p> <p>第 9回 地方自治体の財源(2)：地方交付税、国庫支出金、問題点等</p> <p>第 10回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等</p> <p>第 11回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、利点と問題点等</p> <p>第 12回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等</p> <p>第 13回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、参考事例の紹介等</p> <p>第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p> |      |      |         |  |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | <p>講義の前後に自治体のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>  |      |      |         |  |
| 成績評価の方法            | <p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については 1 回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>  |      |      |         |  |
| 実務経験について           | なし   |      |      |         |  |

|                    |  |      |      |         |                               |
|--------------------|--|------|------|---------|-------------------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 338  |      |      | 担当者     | 田口 康明                         |
|                    | 高齢者福祉  |      |      | 授業外対応   | taguchi@k-kentan.ac.jp ホームページ |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                        |
|                    | 指定なし   | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式                          |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。</p> <p>【概要】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。</p> <p>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につける。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。</p>  |      |      |         |                               |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 小竹雅子『総介護社会—介護保険から問い直す(岩波新書)』</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>   |      |      |         |                               |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第 2 回 (講義) 福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策</p> <p>第 3 回 (講義) 資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義</p> <p>第 4 回 (発表) テキスト「序章：介護問題の社会化」</p> <p>第 5 回 (発表) テキスト「第 1 章：介護保険を利用する人たち」その 1</p> <p>第 6 回 (発表) テキスト「第 1 章：介護保険を利用する人たち」その 2</p> <p>第 7 回 (発表) テキスト「第 2 章：介護現場で働く人たち」その 1</p> <p>第 8 回 第 8 回 (発表) テキスト「第 2 章：介護現場で働く人たち」その 2</p> <p>第 9 回 (発表) テキスト「第 3 章 介護保険のしくみ」その 1</p> <p>第 10 回 (発表) テキスト「第 3 章 介護保険のしくみ」その 2</p> <p>第 11 回 (発表) テキスト「第 4 章 介護保険の使い方」</p> <p>第 12 回 (発表) テキスト「第 5 章 介護保険にかかる金」</p> <p>第 13 回 (発表) テキスト「第 6 章 なぜ、サービスは使いづらいのか」</p> <p>第 14 回 (発表) テキスト「第 7 章 介護保険を問い直すガイダンス」</p> <p>第 15 回 まとめ</p> |      |      |         |                               |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 授業内にて指示(テキストの指示した範囲を必ず読むこと)  |      |      |         |                               |
| 成績評価の方法            | 授業中の発表(各自分担する)70%、ファイナルレポート30%   |      |      |         |                               |
| 実務経験について           |  |      |      |         |                               |

|                    |  |      |      |         |                |
|--------------------|--|------|------|---------|----------------|
| 授業科目               | 授業番号： 339  |      |      | 担当者     | 藤野 博行          |
|                    | 労働法  |      |      | 授業外対応   | 基本的にいつでも対応します。 |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]         |
|                    | 1,2年   | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式           |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。</p> <p>【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方が良い基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。</p> <p>【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる</p>   |      |      |         |                |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) なし（資料を配付します）</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p>  |      |      |         |                |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1 回 ①ガイダンス、②アイスブレイク</p> <p>第 2 回 労働法とは（労働基準法・労働契約法）</p> <p>第 3 回 ①就業規則、②労働契約法の権利義務、</p> <p>第 4 回 ①就職活動と労働法（内々定・内定・内定取消、試用期間）</p> <p>第 5 回 ①労働条件の変更、②転配・出講・転籍</p> <p>第 6 回 ①労働時間とはなにか？、②様々な労働形態</p> <p>第 7 回 ①時間外労働、②前半のまとめ</p> <p>第 8 回 ①中間テスト、②みなし労働時間</p> <p>第 9 回 ①中間テストの講評、②割増賃金、③年次有給休暇</p> <p>第 10 回 ①産前産後休業、②育児・介護休業</p> <p>第 11 回 ①雇用における差別の歴史、②セクシャルハラスメント</p> <p>第 12 回 ①マタニティハラスメント、②パワーハラスメント</p> <p>第 13 回 労働災害と労災保険制度</p> <p>第 14 回 ①懲戒処分 of 自由と種類、②解雇と辞職</p> <p>第 15 回 後半の復習とまとめ</p> |      |      |         |                |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示   |      |      |         |                |
| 成績評価の方法            | ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点)、期末試験 (50 点)  |      |      |         |                |
| 実務経験について           | なし   |      |      |         |                |

他学科・他専攻の人たちと仲良くなりたいので、座席指定をします。また、原則として毎回グループワークがあります。

|                    |   |      |      |         |        |
|--------------------|---|------|------|---------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 340   |      |      | 担当者     | 福田 忠弘  |
|                    | 地域研究特講  |      |      | 授業外対応   | 適宜対応   |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態] |
|                    | 1,2年  | 後期   | 2単位  | 選択      | 講義方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>   |      |      |         |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際 NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>   |      |      |         |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2回 世界の現状 1：キーワードから見る国際社会（1）</p> <p>第 3回 世界の現状 2：キーワードから見る国際社会（2）</p> <p>第 4回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第 5回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容</p> <p>第 6回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障</p> <p>第 7回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？</p> <p>第 8回 社会開発への視点（1）：NGO の活躍（1）</p> <p>第 9回 社会開発への視点（2）：NGO の活躍（2）</p> <p>第 10回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1）</p> <p>第 11回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2）</p> <p>第 12回 社会開発への視点（5）：国連と SDGs(1)</p> <p>第 13回 社会開発への視点（6）：国連と SDGs(2)</p> <p>第 14回 社会開発への視点（7）：地方自治体と SDGs</p> <p>第 15回 まとめ</p> |      |      |         |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | 適宜指示する  |      |      |         |        |
| 成績評価の方法            | 試験（100％）によって評価する。   |      |      |         |        |
| 実務経験について           | NGO での勤務経験あり  |      |      |         |        |

|                    |  |      |      |         |        |
|--------------------|--|------|------|---------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 341  |      |      | 担当者     | 未定     |
|                    | 地方自治法  |      |      | 授業外対応   |        |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態] |
|                    |  |      |      |         |        |
| テーマ及び概要            | <b>【テーマ】</b><br><b>【概要】</b><br><b>【到達目標】</b>   |      |      |         |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1)<br>(2)   |      |      |         |        |
| 授業<br>スケジュール       | 第 1回<br>第 2回<br>第 3回<br>第 4回<br>第 5回<br>第 6回<br>第 7回<br>第 8回<br>第 9回<br>第10回<br>第11回<br>第12回<br>第13回<br>第14回<br>第15回 |      |      |         |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   |  |      |      |         |        |
| 成績評価の方法            |  |      |      |         |        |
| 実務経験について           |  |      |      |         |        |

|                    |   |      |      |         |                       |
|--------------------|---|------|------|---------|-----------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 342   |      |      | 担当者     | 担当教員                  |
|                    | 第一部・基礎演習  |      |      | 授業外対応   | 演習の前後、個別にアポイントをとって対応。 |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                |
|                    | 1年  | 前期   | 2単位  | 必修      | 演習方式                  |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】演習（ゼミナール）の基本的なあり方（運営・議論の仕方など）について学び、学生として必要な作法を身につける。</p> <p>【概要】社会科学系の大学教育の要となるのは「ゼミナール」です。ゼミナールとは司会・報告・問題提起・議論といった対話型の授業であり、学生によって自発的に運営されます。基礎演習はゼミナールに参加する学生に求められる学問的な作法を身につける場です。具体的には、文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方等を学び、演習Ⅰから始まる専門的なゼミナールの予行演習ともいえます。また、学びの作法だけでなく、大学の歩き方（報告・連絡・相談の仕方、様々な窓口・施設での諸手続の仕方等）も身につけます。</p> <p>【到達目標】基本的なゼミナールの運営について理解し、積極的に参加する姿勢を身につける。</p> |      |      |         |                       |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>   |      |      |         |                       |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>   |      |      |         |                       |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)   |      |      |         |                       |
| 成績評価の方法            | ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)  |      |      |         |                       |
| 実務経験について           | ゼミナールごとに異なります。  |      |      |         |                       |

|                    |   |      |      |         |                       |
|--------------------|---|------|------|---------|-----------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 343   |      |      | 担当者     | 担当教員                  |
|                    | 第一部・演習 I  |      |      | 授業外対応   | 演習の前後、個別にアポイントをとって対応。 |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                |
|                    | 1年  | 後期   | 2単位  | 必修      | 演習方式                  |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】 報告・議論・レポート執筆等を通して、担当教員の専門性を活かしたテーマについて、参加メンバーと一緒に学ぶ。</p> <p>【概要】 基礎演習と同様に本演習も、学生が主体的に参加する対話型の授業であり、それぞれのゼミナールの専門的な基礎知識・基礎概念について、通常の講義よりもさらに一歩進んで理解を深める場です。必要に応じて、工場見学等の企業調査や研究のための合宿などの課外活動を実施することもあります。なお、演習 I・演習 II・卒業研究は同じゼミナールに継続して参加することになります。</p> <p>【到達目標】 ゼミナールのテーマに関する基礎知識・概念について正しく理解する。</p> |      |      |         |                       |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>   |      |      |         |                       |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>   |      |      |         |                       |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)   |      |      |         |                       |
| 成績評価の方法            | ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)  |      |      |         |                       |
| 実務経験について           | ゼミナールごとに異なります。  |      |      |         |                       |

|                    |  |      |      |         |                       |
|--------------------|--|------|------|---------|-----------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 344  |      |      | 担当者     | 担当教員                  |
|                    | 第一部・演習Ⅱ  |      |      | 授業外対応   | 演習の前後、個別にアポイントをとって対応。 |
|                    | [履修年次]   | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                |
|                    | 2年   | 前期   | 2単位  | 必修      | 演習方式                  |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】演習Ⅰから引き続き担当教員の専門性を活かしたテーマについて学びながら、本学での学びの総まとめとなる卒業論文の準備をする。</p> <p>【概要】演習Ⅱは、演習Ⅰの内容・講義形式を継続し、特定の専門分野についてさらに学びを進めます。テキストの読解やフィールドで見聞きした事象について表面的に理解するだけでなく、他の講義・実習科目などで学んだことも総動員しながら、事象の本質に迫るような学習が求められる場でもあります。そのような学習を通して、ゼミナールのテーマについての検討すべき問題点を整理し、卒業論文の執筆準備も進めていきます。</p> <p>【到達目標】ゼミナールのテーマについての学習を通して、検討すべき問題を設定することができる。</p> |      |      |         |                       |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>  |      |      |         |                       |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>  |      |      |         |                       |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)  |      |      |         |                       |
| 成績評価の方法            | ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)   |      |      |         |                       |
| 実務経験について           | ゼミナールごとに異なります。   |      |      |         |                       |

|                    |   |      |      |         |                       |
|--------------------|---|------|------|---------|-----------------------|
| 授業科目               | 授業番号： 345   |      |      | 担当者     | 担当教員                  |
|                    | 第一部・卒業研究  |      |      | 授業外対応   | 演習の前後、個別にアポイントをとって対応。 |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態]                |
|                    | 2年  | 後期   | 2単位  | 必修      | 演習方式                  |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】演習Ⅰ，Ⅱを通して学んだテーマを踏まえて，各自で設定した問題について報告・議論を通して考察を深め，卒業論文を執筆する。</p> <p>【概要】卒業研究は商経学科における学びの総決算です。演習Ⅰから継続して学んできたテーマにしたがって卒業論文を執筆します。卒業論文は短期間に一気に書き上げられるほど簡単なものではありません。演習Ⅰから継続してきた専門分野の学習を土台にして，設定した問題に関する文献を渉猟し，必要に応じてフィールドに出て調査することもあります。ゼミナールはその経過を報告し，相互に意見を交わしながら自分なりの答えを見つけ，論文にまとめる場です。</p> <p>【到達目標】自ら設定した問題について，関連文献を渉猟し，調査・考察を重ねて，解答に迫ることができる。</p> |      |      |         |                       |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>   |      |      |         |                       |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>   |      |      |         |                       |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   | ゼミナールごとに異なるため，担当教員が説明します。(100%)   |      |      |         |                       |
| 成績評価の方法            | ゼミナールごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)  |      |      |         |                       |
| 実務経験について           | ゼミナールごとに異なります。  |      |      |         |                       |

|                    |   |      |       |         |        |
|--------------------|---|------|-------|---------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 346   |      |       | 担当者     | 担当教員   |
|                    | 社会活動  |      |       | 授業外対応   |        |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位]  | [必修/選択] | [授業形態] |
|                    | 指定なし  | 通年   | 2~4単位 | 選択(注)   | 実習方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p> |      |       |         |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | <p>(1) 未定（事前指導のなかで指示する）</p> <p>(2) 未定（事前指導のなかで指示する）</p>   |      |       |         |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>第 2回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>第 3回 事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>       |      |       |         |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   |   |      |       |         |        |
| 成績評価の方法            | 研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(101%)  |      |       |         |        |
| 実務経験について           |   |      |       |         |        |

|                    |   |      |      |         |        |
|--------------------|---|------|------|---------|--------|
| 授業科目               | 授業番号： 347   |      |      | 担当者     | 担当教員   |
|                    | 企業研修  |      |      | 授業外対応   |        |
|                    | [履修年次]  | [学期] | [単位] | [必修/選択] | [授業形態] |
|                    | 1年  | 通年   | 2単位  | 選択(注)   | 実習方式   |
| テーマ及び概要            | <p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p> |      |      |         |        |
| (1)テキスト<br>(2)参考文献 | (1) 未定（事前指導のなかで指示する）<br>(2)   |      |      |         |        |
| 授業<br>スケジュール       | <p>第 1回 事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>第 2回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>第 3回 事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>         |      |      |         |        |
| 授業外学習<br>(予習・復習)   |   |      |      |         |        |
| 成績評価の方法            | 研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)  |      |      |         |        |
| 実務経験について           |   |      |      |         |        |

(注)県短独自分分は2年生も履修可